

平成27年12月21日(月)
常陸大宮市
茨城大学
国土交通省 関東地方整備局
常陸河川国道事務所

記者発表資料

～**県内初!**道の駅「常陸大宮」^{ひたちのおみや}と茨城大学との連携～
地域の魅力を体感できる道の駅を企画します。

大学と「道の駅」の交流・連携の一環として、茨城大学人文学部と道の駅「常陸大宮」(平成28年3月オープン予定)及び常陸河川国道事務所の3者で連携企画型の実習を実施することになりました。

この取り組みは、将来の地域活性化の担い手となる人材を育成・確保するとともに、「道の駅」が地域活性化の拠点を目指して進化を遂げるため、「道の駅」と大学がお互いのニーズを確認し、付加価値を創出する企画・立案等を実施するものです。(詳細は別途資料参照)

【実施内容】魅力的な地域資源を発掘し、道の駅から発信

- (1) 魅力を体感できるイベント・ツーリズムの企画
- (2) 特産物を使った商品開発
- (3) 情報発信、PR

発表記者クラブ

茨城県政記者クラブ、竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、

問い合わせ先

- ・茨城大学人文学部 准教授 小原 規宏 (おばら のりひろ)
〒310-0056 茨城県水戸市文京2丁目1-1
TEL:029 - 228 - 8444 (研究室)
- ・常陸大宮市経済建設部商工観光課道の駅整備推進室
室長 皆川 嗣郎 (みなかわ しろう)
TEL:0295 - 52 - 1111 (代)
- ・国土交通省 関東地方整備局 常陸河川国道事務所
副所長 外川 和彦 (とがわ かずひこ)
計画課長 飯田 寛之 (いいだ ひろゆき)
TEL:029 - 240 - 4061 (代)

道の駅「常陸大宮」と茨城大学人文学部社会科学科人文地理学Ⅰゼミナールの学生が連携し、常陸大宮市の魅力を体感できる楽しいしかけを企画・実施します。

常陸大宮市は、約6割を山林が占め、市内には久慈川や那珂川が流れ、豊かな自然環境の中で資源を活かした産業文化が受け継がれてきました。

地理学を学ぶ学生が、現地調査や生産者との交流を通じて「見て・聞いて・体験しながら」魅力的な地域資源を発掘します。



夏の盛りに蒔かれ10月下旬に収穫される秋そばは、粒がそろって実がしまり、蛋白質やカリウム、リンなどの成分を豊富に含んでいます。



特産品である那須楮の樹皮繊維を原料として漉いた楮紙で、茨城県と国の無形文化財、また県の郷土工芸品に指定されています。

取組み①：魅力を体感できるイベント・ツーリズムの企画

- ・特産の「常陸秋そば」や伝統工芸の「西ノ内和紙」を通して、常陸大宮市の魅力が体感できる体験・交流型のイベントや、道の駅から発信する自然を体感できるツーリズムのメニューを企画します。

取組み②：特産物を使った商品開発

- ・西ノ内和紙を使ったインテリアや雑貨等の商品を開発します。
さらに、開発した商品を使った道の駅での空間づくりを提案します。

取組み③：情報発信・PR

- ・道の駅周辺の魅力的な地域資源や、大学と道の駅による連携した取組みを、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を利用して発信していきます。

～茨城大学～

道の駅は「地域の魅力を創造・体感・発信するための場」であり、地域を知ってもらうことで、「ここにまた来たい、住んでみたい」という人が増え、それが地域の活性化につながっていきます。

茨城大学人文地理学Ⅰゼミナールでは、地理学という視点から地域資源を発掘するとともに、学生ならではの若い感性も取り入れ、常陸大宮市の魅力を発信していきたいと考えています。来客者が常陸大宮市の魅力を五感で感じてもらうことを通じて、幅広い客層に支持される道の駅づくりを目指します。



小原 規宏（茨城大学人文学部社会科学科 准教授）